

## 第2回鹿児島県畜産GX推進会議の開催結果について

### 1 開催日時

令和8年1月20日（火）13：30～15：00

### 2 開催場所

県庁6階大会議室

### 3 出席者

県農業協同組合中央会，県経済農業協同組合連合会，県酪農業協同組合，(株)カミチクファーム，(有)藤嶺牧場（(株)ナンチクグループ），(株)水迫ファーム，(株)森ファーム，(有)うしの中山，(株)高崎畜産，鹿児島大学共同獣医学部畜産学科教授，県信用農業協同組合連合会，(株)鹿児島銀行，味の素(株)，味の素ヘルシーサプライ(株)，県農政部畜産振興課，県総合政策部総合政策課

### 4 公開・非公開の別

公開

### 5 議事

- (1) 飼料用アミノ酸給与試験結果（枝肉出荷時）について
- (2) J-クレジットの活用方法や今後のスケジュール等について
- (3) 畜産GXに取り組む農場の認定の仕組みについて
- (4) 事業者における環境負荷の低減に係る取組について

### 6 主な内容

#### (1) 飼料用アミノ酸給与試験結果（枝肉出荷時）について

(味の素ヘルシーサプライ(株))

- ・ 肉用牛への給与試験の結果について，枝肉重量が平均 3.3%増加した。可食部分もロース芯面積が約5%，バラ厚が約2%増加した。
- ・ 試験結果に基づき試算すると，早期集荷した場合で約20日の肥育期間の短縮，または肥育期間を短縮しない場合で約10キロの枝肉重量の増加が見込まれ，温室効果ガスの削減と，生産コストの低減や生産性の向上が期待できる。
- ・ 枝肉重量の増加が見られなかった事業者については，現在，給与試験中の栄養成分などの詳細データを解析しており，投与期間や投与量の変更などによる改善方法等について事業者と議論しながら，対応を考えている。

#### 【意見・質疑応答】

(鹿児島大学共同獣医学部畜産学科教授)

- ・ 今回の試験結果を見て，いろいろなフィールドで同質の結果が得られてい

る、つまり再現性があることは、学術的に非常に重要なポイントである。

- ・ 枝肉のロース芯、バラ厚など可食部分が増えたことは、リジンの添加によりタンパク質合成が増えた結果と理解することができ、枝肉生産に関して非常にメリットがある。
- ・ 皮下脂肪厚が減少する一方で、脂肪交雑（サシ）は維持されていることは、不思議な点。このメカニズムを解明していくことが、取組のさらなる普及や、鹿児島県産和牛の高付加価値化に繋がるのではないかと。

(株水迫ファーム)

- ・ 昨年2月から2農場、約2,300頭に導入した。来月からは、全農場に導入することとしている。期待値に対してのブレ幅はまだまだあるという気はしているが、枝肉重量が平均10キロ増加するコストメリットは非常に大きいと思う。
- ・ 現場の声として、半年間の給与をやめたら、牛が餌を食べる量は減らないが、食べる勢いは減ったなどの感触があると聞いている。

(株森ファーム)

- ・ 良い結果が得られたと思っている。現在、飼料用アミノ酸を肥育前の子牛の育成時点から導入した場合に、枝肉出荷時点でどのような効果があるか試験を行っている。結果次第では、繁殖農家とも協力して、子牛から出荷まで一貫してできればと思っている。

(株高崎畜産)

- ・ 飼料中のタンパク含量を下げた飼料用アミノ酸を給与することで、増体を維持したままコスト削減を図る手法（AG-001）を導入している。当初は、あまり効果が出ていないのではないかと考えていたが、現在は、給与前と同じくらいのレベルに育っており、うまくいっていると思っている。もうしばらくすると出荷できるので、その結果を見て今後進めていきたい。

## (2) J-クレジットの活用方法や今後のスケジュールについて

(味の素ヘルシーサプライ株)

- ・ J-クレジット制度の概要と、今後の活用（ビジネスモデルの展開、クレジットを、本取組を行った牛肉のオフセットに活用）について説明。

### 【意見・質疑応答】

(株鹿児島銀行)

- ・ J-クレジット制度を活用したビジネスモデルについては、従来から協議させていただいているが、スケジュールなどを含めて、引き続き、具体的な協議をさせていただきたい。
- ・ クレジットは、1t-CO<sub>2</sub>あたり1万円の取引を仮定されているが、今後

のスケジュールを含め、確定するのはいつ頃になるか。また、初年度は何トンぐらいが創出されるのか。

(味の素ヘルシーサプライ株)

- ・ 1万円は森林で吸収したCO<sub>2</sub>の取引実績等を参考に試算したもので、実際は相対取引で決まる事例が多いので、相手方との交渉で決まる。
- ・ 今後のスケジュールについては、来年度のJ-クレジット認証委員会の開催時期によるが、例年通り6～7月頃に開催されれば、9月～10月頃にクレジットを発行できる予定である。初年度は取組が始まったばかりで、クレジットの創出は一部の事業者のみである。まだ精査段階ではあるが、50トン程度を見込んでいる。

### (3) 畜産GXに取り組む農場の認定の仕組みについて

(県畜産振興課)

- ・ J-クレジットに登録されたプロジェクトを通じて環境負荷低減に取り組む畜産事業者を、県として認定する仕組みについて説明。

【意見・質疑応答】

(有うしの中山)

- ・ 認定の名称について、一般の方々にとって、耳にしたときにイメージしやすいものの方が、取組を分かっていただけだと思う。国内でも先進的な取組なので、興味を持っていただくためにも覚えやすい名称が良い。

(株水迫ファーム)

- ・ 農場認定はどこをターゲットにした販促に活用していく方針か。また、県の基幹産業である畜産業において、牛肉の国内需要の縮小などの状況がある中で、事業者への販売支援等は考えているのか。

(県畜産振興課)

- ・ まずはインバウンド等をターゲットに、最高級ホテル等での取扱いなどを足がかりとして、それを取引先等に周知するなど事業者がそれぞれの販促で活用していただきたい。

県としては、牛肉消費量が減少する中で、鹿児島県産和牛、和牛日本一鹿児島をキャッチフレーズに、和牛日本一鹿児島応援店等を推進するとともに、農場認定等も十分に活用しながら、販路拡大につなげていきたい。

### (4) 事業者における環境負荷の低減に係る取組について

(株KJバイオ(カミチクグループ))

- ・ 微細藻類コッコミクサKJの紹介

(県経済農業協同組合連合会)

- ・ ボランタリーカーボンクレジットの取組

**その他**

(株)森ファーム)

- ・ 味の素(株)という会社を、日本で知らない消費者はいないと思う。我々畜産事業者も一生懸命真剣に取り組んでいるので、味の素(株)には、是非とも、「鹿児島県こういった取組をした牛肉は、健康にも環境にもやさしい牛肉だ」ということを対外的なCM等で宣伝していただくなど、本気度を見せていただきたい。

以上